

うに思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

○総務課長（岩崎良之君）

お答えします。

今、段階的に年金をもらえる年数が上がってきておりますが、先ほど市長の答弁にもございましたように、再任用職員の増加によりまして、新規採用職員に影響があることから、職員労働組合にも協議いたす中で、年金の支給開始年齢まで再任用でお願いしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

基本的なところを踏まえた上で、運用に当たっていただきたいと思います。

現在、職員の一定割合を、障害者雇用に充てるのが義務づけられていると思います。これ、民間であっても、市役所であっても同じことではないかと思いますが、再任用に当たっての、障害者雇用についての考え方はどうなっておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

○総務課長（岩崎良之君）

障害者雇用については義務づけられておりますので、それに適合するよう努力いたしますし、日頃お願いしている職員で足りない場合は、再任用職員でお願いすることもございます。ただ、今現在、再任用の方でお願いしなくても、基準数には達しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

新保議員。

○16番（新保峰孝君）

この先、年金支給年齢の再延長のようなことも言われている模様であります。雇用と年金支給の接続が、スムーズに行くようにしてもらいたいと思います。

法律の趣旨を理解し、誰もが納得できるように当たってもらいたいということを述べて、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（倉又 稔君）

以上で、新保議員の質問が終わりました。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。〔12番 伊藤文博君登壇〕

○ 12番（伊藤文博君）

清政クラブの伊藤文博です。

子ども一貫教育方針の推進について質問いたします。

平成22年3月に「ひとみかがやく日本一の子ども」というキャッチフレーズの「子ども一貫教育方針」が定められました。

しかし、5年半が経過した現在でも、その成果は、市民の実感として響いているとは言えません。昨年度に方針の改定がなされ、現在、基本計画の改訂版を策定中ということであり、議会委員会でもまだ説明されていませんので、これを中心に教育行政全般について伺います。

- (1) 子ども一貫教育方針等改訂の理由と課題とする重要なポイントは何か。
- (2) 改訂内容はどのような段階（組織）を経て検討されているのか。
- (3) 教育現場（幼・保、小、中、高）の声は、どの段階でどのように取り入れられていくのか。
- (4) 保護者や生徒児童の声は、どのように生かされていくのか。
- (5) 教育委員会（委員）は策定にどのようにかかわっていくのか。
- (6) 推進段階の教育委員会（委員・事務局）と教育現場（幼・保、小、中、高）、地域、家庭の連携が重要だが、どのように図っていくか。推進体制はどのように考えているか。
- (7) 策定された方針が形骸化しないための臨機の改定について、どのように考えているか。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、社会情勢や学校に求められる状況の変化、また、キャリア教育の重要性が高まっていることから、昨年、基本方針の見直しを行っています。

問題は3点あり、1つ目は学力の向上、2つ目は社会性や道徳性の育成、3つ目は家庭・地域とのさらなる連携であります。

2点目につきましては、上越教育大学教授を委員長として、「豊かな心」、「健やかな体」、「確かな学力」の3部会と、「キャリア教育」、「糸魚川ジオ学」、「特別支援教育」の3班を組織し、基本計画の素案をまとめ、パブリックコメントを経て、3月の策定を予定しております。

3点目と4点目につきましては、園、学校、PTAの代表を策定委員としており、現場の声を取り入れております。また、児童生徒の声につきましては、全国学習状況調査や学校評価等の結果を踏まえ、計画に反映しております。

5点目につきましては、途中段階や中間案、改定案の各段階で、教育委員会において協議しております。

6点目につきましては、教育委員会、園、学校、PTA、地域で情報共有ができる機会を設け、中学校区単位で推進できる体制としてまいります。

7点目につきましては、平成35年度までの長期計画であるため、定期的に取り組みの成果を検証し、必要に応じて計画を改定することとしております。

以上、ご質問にお答えいたしました、再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

計画の成り立ちをPDCAサイクルをもとに考えると、P・計画では理念と具体策、D・実行では周知・連携・実践、C・検証とA・改善では随時性が求められると考えて質問いたします。もちろん実行の手法は、計画の中に盛り込まれていなければならないということでもあります。

まず、改定に当たっての検証ですが、平成22年度に定められた方針が、5年たった昨年度末に見直され改定されたわけですが、5年間の総括として一貫教育方針の推進が、日本一を標榜するものに足る成果、手応えがあったかどうかお答えください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

議員のご質問にお答えをいたします。

昨年度、上越教育大学の先生を中心に検証委員会を立ち上げ、これまでの成果、課題についてご協議をいただきました。16名の方々に委員になっていただき、課題、成果をまとめました。それにつきましては、先ほど教育長の答弁にあったとおりであります。

一番の成果としては、幼稚園・保育園、小中の連携ということができてきているということかと思えます。また、不登校の発生率につきましても、最初のころと比べますと、発生率が減少しているということは、成果の1つというふうに考えております

課題としては、先ほどありましたように学力の向上、そして減ったとしても不登校・いじめということで苦しんでいる子供たち、保護者の方がおられるということは、それは大きな課題でありますので、その解決ということが大きな課題と言えます。そして、縦のつながりができてきましたので、今度、横の連携、学校と家庭、地域の連携ということが大きな課題として考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

ここまでも、いろんな議員が質問してまして、今の話はわかるんですが、分析すると、項目を挙げるとそういうことです。私が聞いたのは、日本一を標榜するものに足る成果、手応えがあったかということですよ。そこにちゃんと着眼して答えてもらわないと、これ根本のところですから。

で、これからどうするのかですよ。だめだだめだとかという話をする気は全くないんです。じゃ、今後どうするんだというものにつなげていくために、現状をしっかりと認識するというところが、まずスタートラインですから。教育長、お答えください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

この一貫教育方針を策定する際の趣旨として挙げたものが、基本理念につながっていく事柄でもあるわけですが、子供の教育をめぐっては今までは、今現在もそうなんですが、家庭教育とか幼児教育とか学校教育とか社会教育、こういうものが主になって動いてきております。

ところが、子供が実際に育っていくというのは、どういう育ちをするかということ、一貫的に育っていくわけですから、この段階でこう、この段階でこうと、子供ががく々がく々と変わっていくわけではなくて、そのつながりの部分を大事にしていかなければいけないということで、それは各段階での教育も大事なんですが、体系的・系統的に整えていくことが重要であろうということで、一貫教育方針を策定し、健康・心・学力のバランスのとれた子供の育成を図っていくなどの、基本理念を決めました。

そして、この中で先ほど答弁したように、1番大きな成果としてあらわれてきているのは、先ほどのいろんな議員の質問の中にも、お答えしているわけなんですが、やはり9歳までの生活習慣が、ある程度きちんとついてきているだろうというところが、1つの大きな成果であるかなということで捉えております。

以上です。

○議長（倉又 稔君）

暫時休憩します。

+

午後4時14分 休憩

午後4時15分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

「早寝早起きおいしい朝ごはん」ということについては、非常に取り組みが進められており、全国アンケート調査でも、全国比よりも高い、小中学校ともに高い結果になっておりますので、これについては、十分な成果というふうに言えると思います。

そのほか、学力面等につきましては、まだ十分に、そこまでは至っていないというふうに認識をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

スタートラインですからね。平成22年度の策定委員会名簿を見ると、小中学校の校長・教員、幼稚園・保育園の園長先生、社会教育委員や青年会議所の役職者や学識経験者で構成されている。この方々、素晴らしいメンバーですよ。

ただ、その方々がどこでどのような人たちの意見を吸い上げて、検討材料とするのかというところが、非常に大事なところであり、また、実践する立場の人が策定する立場になると、思考形態が変わってしまうということもあるんです、ある意味。そのことは認めていなきゃいけない。

何よりも認識していなければならないのは、6年前に定められた方針と基本計画では、まだ市民の手応えを得るところまで行ってないということなんです。今、足りないところがあるということ、まず最初に認識して、何が足らなくて何を工夫しなければいけないのかが、わかっていなければ、計画をつくり直しても魂が入っていない、いつまでたっても一緒だということなんです。

そういうようなことにならないように、今、私が幾つか言った点をちゃんと認識して、基本計画を策定されているんでしょうね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

現在、基本計画を策定している最中ですが、豊かな心部会・健やかな体部会・確かな学力部会、キャリア教育・ジオ学習・特別支援教育という3つの部、3つの班で構成をされており、各部・班とも、7名から10名の委員で形成されております。全員で51名の部員・班員で、今、策定をしております。メンバーにつきましては、園・学校の教職員、保護者、民生・児童委員、人権擁護委員、地域コーディネーター、社会教育委員、市のスポーツ推進委員、福祉施設の関係者なども、委員としてなっております。

今までの議員のご指摘のとおり、策定となると、現場の実践者という視点が抜けてくるのではないかということのご指摘、確かにそういうこともあるかと思います。また、そのご指摘を十分、心にとめまして、策定委員会を進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

本当に認識して、取り組んでもらいたいと思います。

考え方を聞いていきますんで、細かい個々の方針ということじゃない質問をしたいと思っております。まず最初に、一貫教育方針のメインのテーマとなっている、「ひとみかがやく日本一の子ども」をちょっと掘り下げてみたいと思います。

「0歳から18歳までの子ども一貫教育方針をご理解いただくために」という文章ありましたよ

ね。これを改めて読んでみると、なかなかちょっとわかりにくいところがある。この辺をしっかり解明しないと、読んだ人、実践しようとしている人に響かないんですね。「日本一の子どもをはぐくむこと」というところで、「学力やスポーツ等の一分野をとりたてて日本一にという位置づけではありません。日本一を目指すという目標に向かい学校、地域、家庭が、それぞれの役割を果たす課程で育つものを大切にしようとしています」という文章あるんですね。

ここで言う「日本一を目指すという目標に向かい」、これちょっと説明してもらえますか。どんな日本一、何が日本一なのか、日本一を目指すという目標というのは、何を目指してるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

そこの文章にあります「日本一を目指す」ということについては、個々のことについての日本一ということではなくて、日本一の子供たちを育てていこうという気構えといいますか、目標といいますか、スローガンといいますか、そういうことをそこの文章であらわしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

そしてその続きですが、「それは、日本一という心構えを持ちながら取り組み、努力し、指導や応援を重ね、熱意を持って子どもの教育に携わっていくという子育て環境を、市全体で整えていくということです」、後半はわかりますね。しかし「日本一という心構えを持ちながら取り組み」、これも私にはちょっとわからない。説明してもらえますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

日本一の子供たちを育てたいという大きな目標、大きな心構え、気概を持って、学校そして家庭、地域が連携をして、子供たちを育てていこうということを、そこに記してあるということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

そう答えるしかないと思うんですけど、実際にわからないんです、読んでもね。そこをやっぱり、まず認めてもらう、認識してもらって、そこをわかりやすく、今回の改定のところで改めていってもらわなきゃいけないということなんですよ。

過去の一般質問等で教育長は、日本一の子供を育てるとはどういうことだと、私が何回も質問をして、確認を別の会でもしてますが、日本一の子供を育てる仕組みづくりだと、目指すのは日本一の子育ての仕組みだよということを答弁してもらってますが、そこをここで明確にしていかなきゃいけない。

ところが、あの答弁があった後も、残念ながら出てきてないんだよね、いろんな公式なところにその意味合いが。だから、やはりそれを明らかにしていかなきゃいけないと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

日本一の子供を育てますという言葉、その意味の中にどういうことが含まれているかという、やはり生まれ育ったふるさと糸魚川を愛するというのが、1つ関係してくるかと思います。そして、一人一人の個性を生かしてその能力を十分に伸ばす、それから、成人した後も糸魚川で育ってよかったと実感できる、こういうことが日本一の子供という言葉につながっていく。我々は、そのように捉えております。

○議長（倉又 稔君）

暫時休憩します。

+

+

午後4時23分 休憩

午後4時23分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開します。

○教育長（竹田正光君）

すみません。

そういう子供たち、今、日本一の子供、生まれ育ったふるさと糸魚川を愛したり、一人一人の個性を生かしてその能力を十分に伸ばしたり、そういう子供たちを、さっき、体系的とか系統的という言葉を使わせてもらったんですが、結局、体系というと組織になっていくのかなとは思いますが、でも体系というのは、知・徳・体3つに分けることができると思います。そして、組織というのは、園・学校それから家庭、地域、こういう3つの組織に大きく区分けすることができるかと思うんです。そして、それを系統的にきちんとまとめてある。その系統に沿って、それぞれの組織の人たちが、子供に働きかけていくことが、我々はシステムというふうに考えているんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○ 1 2 番（伊藤文博君）

ですからその思いが、前に答弁してくれた日本一の子供を育てる仕組みだよと、仕組みは日本一のものをつくっていくんだよと、今の系統だったもので。そこを明確に、今後の計画の中にわかりやすく盛り込んでもらえますねということと言ったんですわ。考え方はわかってるので、そこが、ところが、計画には読み取れないからということをおっしゃるんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

当市の子供一貫教育は、学校、家庭、地域社会総ぐるみでの、子供たちを育てていこうという一貫教育方針、そしてそれに基づいた計画であります。ですので、その学校、家庭、地域が一緒になる、コミュニティスクールというような取り組みについても、今、検討を進めており、来年度、試行的に、糸魚川小学校とひすいの里総合学校を、コミュニティスクールに指定するということを考えて、今、準備を進めている最中でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○ 1 2 番（伊藤文博君）

だから、その個別のことを聞いてないんですって。

日本一の子供を育てる仕組みづくりが、日本一の仕組みをつくりたいと、その考え方をしっかりと、計画の中でわかりやすく盛り込んでもらえますねと言ってるんです。それ以外のことは聞いてませんよ。

物すごい面倒くさいことを聞かれておるんじゃないかと先入観を持っておるから、そういうふうになるんかもしれんけど、簡単なことしか聞いてないんでお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

大変失礼をいたしました。

学校・園、家庭、地域、3者で連携しながら、子供の自立を目指すということを、基本計画の構成としておりますので、そういったところを明確にした計画をつくっていきたいというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○ 1 2 番（伊藤文博君）

日本一だけで30分やらなきゃいけん。

+

何が日本一なのかと、日本一と言ってる以上は、日本一が何なのかということを、明確にしないといかんということを言ってるわけですよ。日本一なのは、子育ての仕組みが日本一を目指すんだというところを、はっきりしてくださいと言ってるわけです。ほかのこと聞いてない。日本一と言ってるから、日本一を明らかにしてくださいと。それを、基本計画の中で明確にしてもらわないと、誰の胸にも響きませんよということです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

基本計画の中で、それらのことを、きちんと明確に示せるようにしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

そういう意味で、子育て環境を、市全体で整えていくという言葉も入ってるじゃないですか。ちゃんと言ってるんだけど、日本一のところで、わけのわからん書き方するから、わからなくなっちゃうんですね。全体に、そのところをやっぱり、わかりにくいところを改善して、わかりやすくしていってもらいたいということですね。

平成22年に、子ども一貫教育方針が定められスタートしたんですが、平成21年度からの教育費の状況というのはどうなってますか。これ宣言してから、ふえてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

数字的なものは、今、持ち合わせておりませんが、それ以降のことで申し上げますと、教育補助員の配置でありますとか、それからICTの学校への導入とかで、そういった面での経費は、増加しているというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

単純ですけどね、決算の数字から、決算参考資料にある主な事業の費用を引くと、全然ふえてないんですよ、実は。教育費が、そうふえてるとは言えない。

予算をかけないで、教育の向上、日本一の子供を育てることができたら言うことはないですけど、そうはいかないですね。どうしても、動くには資金が要る。必要なところに資金を投入し、同じ費用でより多くの効果を上げる努力をしていかなければならない。

日本一の子供づくり、日本一の子供を育てる、日本一の子供を育むと、いろんな言い方をしとき

てますが、市長の公約や任期中に立ち上げた政策には責任が伴いますね。

決算の経過を見たところで質問しますが、予算かけないでどうやって教育の向上を図ろうとしたんですか。細かいことはちょっとわかりませんが、大きな変動がないという前提でお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

すみません、正確な分析ができておらないまま答弁をしておりますが、結局、東日本大震災以降、まずは、学校施設の耐震化、避難所としての耐震化というところで、当市も非常に大きな老朽した校舎の建てかえ等で、教育費の中で、それを抱え込んでおったために、そのしわ寄せが、今、議員のご指摘のところに、あらわれてきたんじゃないかというふうに思っております。限りある財源ということで、力の入れどころを今、学校施設等の耐震化に、これまで注いできたということだと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

予算かけなきゃだめですよ。そこを、今、押し問答してもしょうがないんで、以前に何度も質問で取り上げてますが、兵庫県小野市は、教育レベルの高い兵庫県においても、教育のまちとして名をはせている。平成22年2月に視察に行っていますが、平成10年度から20年度までの間に、学校教育予算が3.6倍の伸びを示してるんですね。これはもう市長の方針です、教育に力を入れる。パソコン、プロジェクター、実物投影機を各全教室に配備している。これも糸魚川で、電子黒板を景気対策で配置しましたね、1校に1台。これ、使われてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

電子黒板につきましては、実態を見ますと、学校によるといいですか、教員によるというところが実態としてはあります。全学校で、そして全職員が、一生懸命使っているかという、まだまだ十分ではないという実態がございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

ハードだけ与えても、ソフト面が支援がなければだめだし、ハードも中途半端な配備じゃだめなんです。このときも言いましたが、立派な、例えば液晶だとかというようなテレビじゃなくて、プロジェクターのスクリーンのほうに、ちょっと機械をつけると電子黒板になる安価な物もあるか

ら、もっとたくさん配備しなさいという話も委員会でもしたんですけど、そのまま行っちゃった。結局、中途半端になってる。

今、差があると言いましたが、使われていないですよ、実際は。ほんの一部の職員が使ってるかもしれない。移動することも面倒だからできない。そのために、休み時間じゃ準備できないのが現状だということです。

そういう状況を、教育施策について財政を握る、総務部企画財政課は把握していますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

電子黒板の使用について、今、現状を聞いて、ちょっとショックを受けております。

入れる際にはやはり、しっかり教員研修等をして活用するということで聞いております。そういう面で言うと、もう少ししっかりと活用してほしいというのが、私の感想です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

違うんですよ、活用できないの、今の配備じゃ。だからそれは、最初から委員会でも言ったじゃないですか。言ったとおりになってるんですよ。やっぱり、そういう現状を、認識してもらいたいと思います。

要するに、子ども一貫教育方針基本計画は、理念だけではだめだということで、明確な手法が示されて、児童生徒、保護者、学校、地域社会が理解できるものにしていかなければいけないですね。さっきみたいな中途半端な日本一という表現も明らかにしていかなきゃいけない。

例えば「じゃれつき遊び」、「早寝早起きおいしい朝ごはん」、さっきから出てますけど、これは明確で誰にもわかりやすく、即実行されて、即効果が出ている。

一方、「一人ひとりの個性を生かしてその能力を伸ばし、子どもの夢を育てます」と言ってますけど、その手法は、連携をとってかかわっていかなければならない各分野に対して、あなた任せになってるんですね。基本計画は、実践に結びつかないから、教育学的な視点から、実践への道しるべとなっていくべきである。教育学的な羅列では、実際どうしていいかわかりにくくなってしまってますね。

例えば、総文で視察に行ってきた三郷市の「日本一の読書のまち三郷」のように、明確なキャッチフレーズ、宣言があって、そして総体的な取り組みが明確にされていくということが必要であると思いますが、これは計画全般にですね、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

三郷市の取り組みにつきましては、情報をいただいております。とても、１点集中といいますか、非常に焦点化されているというところが、非常にわかりやすくなっておりますし、実践もしやすいものだなというふうに考えています。そういったことも、また、これからの一貫教育の基本計画に、役立てていきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○１２番（伊藤文博君）

読書については、別の推進計画のほうでやっていきたいとは思いますが、例えば三郷は「子育てのまち三郷」とも言ってるんですよ。これしかやってないわけじゃない、総体的に子育ての充実に取り組んでいることということですね。

教育現場の声は、どのような段階で取り入れられていくのかという話ですが、全ての教員が、糸魚川市の方針を理解し、積極的なわけではないということも認識しなければならない。現状ですね。

現場の負担感の軽減、そして解消も重要な要素であり、やりがいを感じながら取り組んでいく仕組みづくりをしていかなければいけない。現場の声を聞いていくことは重要だと思います。

どのような頻度で入り込んで、どうやって現場の実態をつかんでいくのかということも大事だと思いますが、これはどういうふうにやっていくんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

毎年、各学校にはアンケート調査を実施しておりまして、そういったところから、実際の取り組みについて評価を得たいと思いますし、今年度は昨年度よりも、指導主事の学校訪問をふやしておりますので、各学校へ直接に出向いて、職員の声を聞き、それに生かしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○１２番（伊藤文博君）

ぜひ、学校訪問の回数をふやしていつてもらいたいと思いますし、先ほど取り上げたＩＣＴの活用などは、一時的にはちょっと負担となるかもしれませんがね。

しかし、手法が確立され、ツールがそろえば、教職員の負担を軽減し、やりがいを持たせることにつながっていくと。もともと、志して教員になった人たちを、現状から一步踏み込んだ対応をすることにより、教育現場を改革していかなければ、特色ある子育ての仕組みを構築することはできないというふうに考えます。ここへの取り組み、重要だと思うんですよ。どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

- 教育委員会こども教育課長（山本 修君）

おっしゃるとおりかと思います。

特にＩＣＴにつきましては、機器だけあっても、やっぱり使うのは人間でありますので、教職員の研修ということ、そして指標とありますが、そういったことも考えていかなければなりません。来年度、情報教育についての、市としての考え方というか進め方を、現場の先生方と一緒に考えて、つくっていききたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

- １２番（伊藤文博君）

今の話は、ＩＣＴにこだわった話じゃないんですよ。

例えば、計画で仕事があふえて、１０の仕事をさせられて１の効果しか上がらないというのは、おもしろくないですね。誰もやる気なくなる。だけど、５の手間をかけて、１０の効果を上げるようなことを考えていかなきゃいけないということですよ。

今度は、保護者、生徒児童ですが、これは声を生かすという言い方をしましたが、保護者や生徒児童の現状を知ることから始めるべきであって、その中の有益な情報を、計画に生かしていくという視点が重要だと思うんですよ。

例えば、「夢を育てる」という部分でも、子供たちの状況を確認しなければなりませんし、基本計画の「確かな学力の育成」のところで、１５歳までの思春期前期のところですが、「夢や目標に向かう意欲づけと励まし」というのがありますね。この内容などは、家庭の協力、家庭との連携が全てあります。ということは、家庭の状況を知らなければ、打つべき手もわからない。

どのような手法で、アンケートなんていう中途半端なことじゃなくて、どのような手法でこれを把握し、そしてその情報を共有、分析して、改善策の検討をしていくのかということなんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

- 教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

子供たち、そして家庭の実態についての把握ということについてですが、なかなか詳しいところまで実態を把握するということは難しいところがあります。アンケート調査等で実施をしていくということもありますが、こども課の相談員の方に、実際、相談される方もいらっしゃいます。また、先生方、幼稚園・保育園そして小学校、中学校の先生方に、保護者の方が相談されるということもございます。そういった声も拾って、計画に生かしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

- １２番（伊藤文博君）

今、質問すれば、そう言いますよね、相談員に相談された情報を生かしていきたいと。

でも多分、計画策定の段階では聞きませんよ。それはそれ、これはこれで、なかなかつながっていかないんですよ。つながりにくいんだと、いろんな情報がつながりにくいということを認識することが大事ですね。

今、こっちへ向かって子供のことをやってるのと、こっちへ向かってやってる。これ、こことここがばらばらになってるなんてこと、よくありますから、その辺しっかり認識して取り組んでください。

例えば、「夢の実現に向けて励まし支援する」として、「夢や目標について家族で話し合いました」となってますよね。こんな簡単なことであっても、保護者にちゃんとこの情報が伝わってるかですよ。話し合ってくださいよという、その糸魚川市の方針が保護者に伝わってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

家庭に、その情報がきちっと伝わっているかということですが、それが一番の反省のところだと思っています。新しい一貫教育の方針のところにも、子ども一貫教育の市民への周知というところが課題というふうに書いてありますが、そういったところは、十分に周知していかなければならないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

私が言ってるのは、そういうふうに現状をしっかりと正しく把握して、今、改定中の計画に、生かしてってもらいたいということですから。

今のは周知ですけど、今度は具体策ということで言うと、じゃあ、その多くの保護者が、残念ながらその手法すら、おぼつかないわけですよ。子供と夢を語ります。だって、おいちょっと夢語ろうかなんて、そんな会話にならないでしょう。やっぱりそういうところから、親子の関係づくりの具体的な取り組み事例が必要になってくるということだと思うんです。理念だけではだめなんですよ。

だから、周知すること、具体策をちゃんと示して、やりやすくしてやるということ。その観点ではどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

現在の「夢を育てる」というところでは、キャリア教育という部会で、今、計画を立てておりますが、今あるものを見ましても、まだ十分、具体的になっているかというと、具体性がまだ十分ではないかと思います。議員のご指摘にも、これからの改定に役立てていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

どうも、基本計画を見ていると、学術資料みたいなんですよ。要するに、実践計画とは、なかなか受け取りにくいというところで、それは書いてあることは正しいし、立派なんですよ。それが、どうやって実践に移していいかということが、例えば学校、家庭、地域それぞれが、やはりなかなかわかりにくい。そうすると、今、全体を書いてある計画を、それぞれの家庭用とか、地域用の手引書みたいな物が必要になってくるのではないかと。本当に、子ども一貫教育方針をしっかり推進するんなら、そういう取り組みが要すると思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

前回の、推進策定委員会の際にも委員の中から、それでは家庭では一体、何をすればいいのか、この時期に学力向上で何するのか、心を育てるのに何をするのかというのが、ぱっと一目でわかるものが欲しいという、ご意見がございました。

そのとおりだなというふうに思っておりまして、議員おっしゃったような、別のものにするか、または、今つくっているものの後ろのほうに、家庭ではどうなのか、家庭ということで、心・体・健康というところで考えてみたりというような、別刷りのもの、別に整理したものを、表としてつけ加えるということも考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

今の答弁はちょっと不安なんですよ。また、項目と、やらなきゃいけないことをまとめただけでは、なかなか手引書にならない。やっぱり、もうちょっとわかりやすい何か、例えば漫画を入れたようなものの中で、わかりやすくしてもらおうということも、予算がかかりますけど、やってもらわなきゃいかんと思います。

方針には、「子どもが夢を描き、その夢を育てる展開」というところで、「糸魚川で育つ子ども一人ひとりが自分の将来の夢や希望を描き、目標に向かって努力を重ねるとともに、その実現に向けて家庭や園・学校、地域が一体となった取り組みを推進している」ということですね。「学校教育ではキャリア教育の推進を通してはぐくんでいく」とあります。

この「一体となった取り組み」が、どのような具体的手法で推進されていくのか、ここが明らかになっていない。理念はいいですよ。どうやって一体的にやっていくのかという。さっき、コミュニティスクールの話もちょっと出てましたけど、やはりそういう具体的なものを、進めていかないと無理だと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

一体となった、子供たちへの指導ということでは、やはり、より学校教育に対してのかかわりが深まるコミュニティスクール、学校運営協議会ということの仕組みが効果的ではないかというふうに考えております。上越市でも取り組んでおられ、今年度、全国大会が行われたわけではありますが、それについても、市から何名かの先生方が行っておりますし、当課の職員も参加をし学習、研究をしまいったところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

何回も言いますけど、今、策定中の計画を、いいものにしたいと思って質問してますので、そのつもりで教えてください。

やはり、教育委員会の、会議体の教育委員会と事務局、そして教育現場の連携が十分に図られていることが、これも重要だと思う、学校教育のところでは。もっと情報交換を頻繁にして、コミュニケーションをよくとって、やっていかなきゃいけないと思うんですが、これどういうふうに図っていきますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

現在の基本計画につきましては、10月の教育委員会で、方向性とスケジュールをお示しし、11月の教育委員会で、これまでの素案を報告いたしました。12月の教育委員会で、中間案について、ご意見をいただくということを考えております。

教育委員の皆さんからのご意見というものを、もっと頻繁に受け、そしてその意見について、この基本計画に生かしていかなければならないなということを、今、考えております。

教育現場との連携につきましては、校長会ですとか、また、策定委員の皆さん方も委員で、策定委員の皆さん方の中にも、現場の先生がたくさんおりますので、そういった方々との連携も図っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

私が、ある程度持つてる情報の中では、やはり市教委と教育現場の意思の疎通が、もっともっと活発にしていかなきゃいけないじゃないかなという感想を受けてますし、それから、人事は県の教育長が握ってるんですから、県との連携も重要だということである。

残念ながら現状は、糸魚川市の扱いは重いとは言えないようであるという情報もあります。

昨年度末のごたごたにより、人事にも影響しているとすれば、よい教員が糸魚川市にそろわなければ、教育現場はよくなる。

これは、どのようにこの関係を円滑にしていくか。やっぱり足を運ばなきゃだめだし、会いにくい人ほど会わなきゃだめだし、しゃべりたくない人ほどしゃべらなきゃならんしということだと思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

県の義務教育課の課長と会うのは、年に数回しかないわけですが、機会をつくって、会う回数をふやしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

通常以上に、やっぱり足を運んでもらいたいですね。いい関係を築いてください。

学校と地域の連携が重要なんです、いかに地域の学校への協力を仰ぐか。これは多分、校長の取り組みが大きいと思います。

さっき、高校のところでそういう話も出てましたが、上越市の中郷中学校の取り組みですが、生徒の発想を生かし、子供から大人まで地域全体で保護者が前面に出る、新しい文化祭を企画・実行したんですね。新聞でも報道されていました。生徒や保護者にとどまらず、地域住民も訪れ、大変にぎわったそうであります。生徒に文化祭のアンケートを実施し、寄せられた意見をもとに、屋台村での昼食販売、地域住民の作品展示、500席満席でのステージ発表が行われた。これまで、学校と関係のない皆さんにも学校を訪れてもらう非常にいい機会になったということなんです、こういう取り組みどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

私も、その報道について承知しております。とても、地域を巻き込んだ、ダイナミックな活動だなというふうに考えております。

糸魚川小学校と、ひすいの里総合学校をコミュニティスクールにということで、先ほどお話ししましたが、今年度、両校が一緒になって、夜、コンサートを地域の方に来ていただいたりして、演奏者は保護者の方だったりというような、コンサートを開催しております。そういった、地域に開かれていく活動ということ、これからどんどん、学校でやっていくということが大切かと思っております。

○議長（倉又 稔君）

ここであらかじめ皆様にお諮りをいたします。

本日の終了予定時間が午後５時を回る見込みになってまいりました。

このことから会議時間の延長を行いたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

ご異議なしと認め、そのように決しました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○１２番（伊藤文博君）

今の、文科省のコミュニティスクールの取り組みは、地域連携に本当にぴったりですね。

例えば田沢小学校の後援会では、毎年の会議で、助成金を出すにとどまらず、何かできることはないかと、いつも話が出るんですが、実際、何をすればいいのか、どのような手法があるのかわからないので、多少の改善にとどまっているという状況ですが、コミュニティスクールこそ、地域の思いに、方向性を与える絶好の手法だと思うんです。やっぱり、推進してもらいたいということです。これはまた、やってもらうということなんで、報告をもらいたいと思います。

教育委員会、先ほどこちょっと答弁ありましたが、教育委員会の、会議体のほうの教育委員会の扱いが、形骸化していると。法律や条例で定められたことを教育委員会の議題として、本来、独立した機能を持たなければいけない委員会が、市長の方針を追認するだけの機関としての扱いになってしまっているのではないかと。

これは、糸魚川市だけではないと思うんです、どこもみんなそうだと。だとすりゃ、変えなきゃいけないと思うんですがどうですか。これは、教育長をお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

追認だけの機関になっているということではないと、自分自身では捉えております。会議の時間も、結構、長くなってきておりますし、今までと、姿は少しずつ変わってきてると。自分たちの意見を言うことも、結構、多くなってきておりますので、単なる追認機関ではないということを、明言したいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○１２番（伊藤文博君）

いやそりゃ、委員の皆さん、思いがあるからいろいろしゃべりますよ。だけど、この糸魚川市というもののの中の位置づけが、そうなってしまっているんじゃないかと、長い歴史の中で。今の扱いがどうこうじゃなくて、もう要するに現状としてそうだと。だから、教育委員会不要論が出るんじ

ゃないかということですね。ところが、そうではないわけですよ、今回の見直しでもそうじゃないんだからそこをしっかりと、現状をしっかりと把握しなかったら改革はできないと、さっきから言ってるじゃないですか。もう1回どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えします。

今ほど、形はだんだん変わってきているというお話をさせてもらいましたが、当初は、そうではなかったのかもしれませんが、でも、一人一人がきちんとした意見を持って、その意見を言うようになってきたということで、変わってきてるなという捉え方をしてるということです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

教育委員長は、教育委員の中から選ばれ、教育委員会の会議を主催し教育委員会を代表する。教育長は、教育委員会の中から任命され、教育委員会の指揮・監督のもとに、教育委員会の属する全ての事務をつかさどり、事務局の事務を統括、そして所属職員を指揮・監督する。教育委員長は、こういう立場ですよ。教育長は、教育委員会の指揮・監督のもとに、実際そうになってないでしょう。気分的な話してるんじゃないんですよ。そこを聞いてるんです。だとしたら、現状を把握して、何かやっぱり変えていかなきゃいけないじゃないかということ言ってるんですよ。防御ばっかりの答弁してたら、この点、とことんやらんといけなくなりますよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えします。

企画・立案するのは、我々事務局の仕事ですが、その企画・立案のところに携わってきているかということ、そうではないということが言えます。そここのところを、やはり反省して、動いていく必要があると思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

それで、やっと一歩前進ですね。

優秀な方々は、議会の同意を得て任命していて、やはりその人材を生かさないことが、どれだけの損失になってるかということだと思っんですよ。やはりしっかりと、ある能力を十分に生かして取り組んでもらいたいと思いますし、また、狭い意味の教育委員会の事務局が、広い意味の教育委

員会という、非常にわかりにくい構図ですよね。これ、変えたらどうですか。都道府県は教育庁と言いますね、省庁の庁。市では教育局と言うところもあるし、教育委員会事務局と言っているところもあります。これ明確にしないと、名称が一緒に、なおさら扱いが曖昧になってると思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

おっしゃられるように、一言で教育委員会という言葉を使ったときには、伊藤議員がおっしゃるように、ちょっと紛らわしい面があるというのは、感じるところであります。

現在の、教育委員会の事務局の体制は、正しくは、教育委員会事務局と言うべきなんだと思いますけれども、それを教育委員会というような形で、事務部門の体制も、そういう呼び方をしております。何か、単純にわかりやすい言葉があれば、そのような形で呼んでいくことも必要かと思っておりますので、今後の検討かというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

私が言ってるのは、わかりにくいだけでなく、それが同じなために、大事な本来の教育委員会が、扱いが曖昧になってしまってるということも考えられるということです。そうすると、教育委員会と教育局だとか、教育委員会事務局というのが別だとすれば、ここは明確になっていくと。実際、陰に隠れてわからんような状況になってしまってるんじゃないかというところを、やはり考えないとだめだということですね。

それから今度、臨機の改定について聞きますが、計画が立派な製本されてることに、違和感を覚えますよ、我々民間人としては。ちょっと何か必要があれば、改定して第何版、第何版と改定履歴をつけて改定していくのが、実際の計画ですよ。ひどい例が、予算書です。議会にかけられた時点で製本されておる。変えないことを前提に、議会にかけてるようなことになってしまってるわけですね。そういうふうに思っていないでしょうけど。

だからやはり、例えば総合計画であっても、例えば市長が新しい公約を出したら、必要なところは変えていくぐらいの考え方がなきゃだめだと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

総合計画のほうの件については、以前にも伊藤議員のほうから、お話があったところであります。確かに時代の変化で、現在のように時代の変化が激しいときには、最初に策定したものを、またその社会情勢に応じて途中で改定するということは、十分、考えられる状況であります。製本するか

どうかというのは、今までは、見やすさから製本したりしていたんですけれども、その点についても、考え直す必要があると思っておりますので、検討させていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

実は、行革のときに大綱だけは初めて多分、改訂版を出してもらったと思います。やはり、そういう取り組みが必要だと思いますね。

先ほど、五十嵐議員の中であった高校連携ですが、やはり地方創生・若者の定着、これはやはり重要です。地方創生・若者の定着の意味でも、やはり高校で自主的にやってもらわなきゃいけないところはあるけど、やはり、高校の取り組みが悪ければ衰退するんでも困るわけですよ。やはりそこへ、どういう刺激を与えてともにやっていくか。0歳から18歳と言っているわけですから、やはり今、私の質問はほとんど小中を念頭に置いた質問でしたが、やはり高校との連携を計画の中で、もうちょっとしっかりとやっていってもらわなきゃいけない。でも、書いてありますよ。だけど実際、何もやってないじゃないですか、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

高校との連携ということについては、非常に大きな課題だと思っています。小中までは、十分な連携ができていると思いますが、高校までとの連携というのが、なかなかうまく進んでいないというのが実情です。今年度、私のほうで各校の校長先生のところに回ってお話をしてみたり、また指導主事が校長会に行って、校長先生方とお話をしたりという会を、ようやく持ち始めたところでもありますので、この高校との連携ということについても十分、心して取り組みたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○12番（伊藤文博君）

やっぱり、高校教育の充実は、地域社会としては物すごい重要です。やはり、子供をこの地域で育てたいと思うかというところで、最終の仕上げ段階、大学進学するにしても社会に出るにしても大変、重要なところで、この地域の子育てを評価する後半の重要なポイントになってくる。ここが充実してくると、中学教育も充実してくる可能性もありますよね。そういうふうに考えてもらいたいと思います。

まとめとしては、やはり全体に具体性に乏しいと。今までは、計画を見て、すぐ実行に移せるものになっていないという印象が、強いわけですよ。この計画を渡されて、ではどうしたら、何をしろというのを、そういう声が出てたと、さっき答弁でありましたが、やはり考え方は理解できるが行動がわからないとなってしまう。基本計画に書き込めるものに限界があれば、先ほども言いまし

たが、手引書のようなものをつくる。解説書だっていいかもしれない。何々のためにという手引書があってもいいと思う。基本計画の下に、また実施計画が来るなんていうのはだめですよ。手間もかかるし、また、ますますわかりにくくなる。計画倒れに終わる。計画を策定して仕事が終わって、気がついたら何もやってなかったということに、なりかねないということがあると思うんですよね。

やはり、今ほどいろいろと意見を言わせてもらいましたが、まだ策定途中だと思います。これから委員会にもかかってくるんだと思いますが、ぜひ、現状をもう1回しっかり認識して、一つ一つチェックして、中身のある実効性のある、そして必要なものはまたどんどん、しっかりした製本でなくていいからつくっていくというような考え方で、取り組んでいただきたいと思います。

ありがとうございました。

○議長（倉又 稔君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

午後5時07分 延会

+

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員